



福島県における個別避難計画の作成への取組 ～『個別避難計画策定支援ツール』の作成～

令和5年3月7日
(個別避難計画作成モデル事業 成果発表会)

福島県
危機管理部災害対策課
保健福祉部保健福祉総務課

【取組の経緯】 令和元年東日本台風等により40名の死者（全国で最多）
直接死32名のうち、21名（65.6%）が65歳以上

【作成に向けた決意】 **県内59市町村全てに個別避難計画を！！**

○ 一方で、計画作成数の下方修正が相次ぎ…

R 4 調査：7自治体が作成済→未作成に（R 5 調査でも6自治体が作成済→未作成）

理由）「要支援者名簿を個別避難計画として取り扱っていた」⇒ 市町村の理解不足。

○ 当初の課題

- ・ 職員のノウハウ不足 44市町村(74.6%)
- ・ 他業務と兼任のため時間がとりにくい 52市町村 (88.1%)
- ・ 個別避難計画の作成促進にあたってのツール等の提供 49市町村 (83.1%)

↓

民間コンサル（三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)）と協力して、

「**計画策定支援ツール**」を作成することに。

（未作成市町村の作成実務を支援。27市町村のうち、25市町村が支援事業に参画）

《重視したこと》

- ・ より実務的手法にフォーカス（実務はツール、制度は国指針）
- ・ 市町村担当者での使いやすさを重視（情報の取捨選択）
- ・ ツール案を用いての実証を踏まえ、現場の実情や市町村の声を反映

策定支援ツールは、ガイドライン&ワークシートがメイン

ガイドラインでは、個別避難計画作成の流れやポイントを10フェーズに区分

目標	テーマ	取組のステップ	
個別避難計画をつくる	たたき台づくり	1.ハザードを知る	防災 担当
		2.作成優先エリアを選ぶ	
		3.選定エリアの避難ビジョンをつくる	福祉 担当
		4.選定エリアの対象者を分析する	
		5.たたき台を作成する	
	本人等との調整	6.本人・避難施設等と調整する	
いざというときに同計画を使えるようになる	個別避難計画の共有	7.個別避難計画を完成・共有する	
	訓練	8.訓練する	防災福祉 共同
	避難の受け皿づくり	9.避難の受け皿拡大の取組	
	計画の更新	10.個別避難計画を更新する	福祉 担当

ワークシート1

2階層（小学校区など自主防災組織や自治会の地域単位とさらに地域を分けた地区を想定）

1. 地域ごとのハザードを知る

災害の種類		地震		津波	洪水		土砂災害	その他※3
被害想定状況		震度7の想定あり ※1	液状化の危険度が高い地区の想定あり ※2	浸水想定区域あり	浸水想定区域あり	浸水想定区域あり	土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域あり	警戒区域等あり
必要な避難（原則）				立退避難	立退避難	立退避難	立退避難	
災害や河川の名称等		▲▲地震	▲▲地震	◆◆地震	○●川	●○川		
△△地域	△△1地区	○						
	△△2地区	○						
	△△3地区	○						
◆◆地域	◆◆1地区	○	○			○	○	
	◆◆2地区	○	○			○	○	
	◆◆3地区	○				○	○	
□□地域	□□1地区	○		○	○	○		
	□□2地区	○		○	○	○		
	□□3地区	○		○	○	○		
	□□4地区	○		○	○	○		
■ ■地域	■ ■1地区	○						
	■ ■2地区	○						

計画作成の優先エリアを決定するため、管内各地域のハザード状況を整理

2. 作成優先対象エリアを選ぶ

		○の数の合計	優先度 (5年以内の作成)	個別避難計画策定年度 (○:作成、★:訓練)					その後 R 8以降	R 5年度以降の策定に向けての調整事項や R 4年度中に準備として取り組むこと
				優先対象エリア						
				R 4	R 5	R 6	R 7			
△△地域	△△1地区	1	優先	○★						
	△△2地区	1	優先	○★						
	△△3地区	1	優先	○★						
◆◆地域	◆◆1地区	1	その他					○★	R 5の策定に向けて、◆◆地域とスケジュールや体制等について協議	
	◆◆2地区	4	優先		○★					
	◆◆3地区	3	優先		○★					
□□地域	□□1地区	4	優先			○	★		○●川の洪水について、隣町と広域避難について協議を開始	
	□□2地区	4	優先			○	★			
	□□3地区	4	優先			○	★			
	□□4地区	4	優先			○	★			
■ ■地域	■ ■1地区	1	その他			○	★			
	■ ■2地区	1	その他			○	★	○★		

整理したハザード状況を基に、優先対象エリアを決定する。

3. 選定エリア避難ビジョンを作る

地域名	優先度	作成年度	人口	避難行動要支援者の人数						一般住民の避難先				
				合計	区分A (要医療)	区分B (要介護)	区分C (障がい)	区分D (一般)	その他 (BC重複)	地震	津波	洪水		土砂災害
										▲▲地震	◆◆地震	○●川	●○川	
△△地域	優先	R4	1,000人	15人	1人	2人	3人	4人	5人	△△小学校				
◆◆地域	優先	R5	2,000人	0人						◆◆小学校			◆◆公民館	◆◆公民館
□□地域	優先	R6	3,000人	0人						□□小学校	◇◇センター	◇◇センター	◇◇センター	
■ ■地域	その後	R8以降	4,000人	0人						■ ■中学校				
0	0	0		0人										
0	0	0		0人										
0	0	0		0人										
0	0	0		0人										
0	0	0		0人										
0	0	0		0人										
合計			10,000人	15人	1人	2人	3人	4人	5人					

選んだエリアの要支援者人数と、想定できる避難先を見える化する。

ここでは、一般の高齢者や障がいの軽い方など、一般避難所の福祉スペースで支援可能な要支援者は、地域の一般避難所への避難を想定する。

4. 選定エリアの対象者の分析

地域名	誰が（避難行動要支援者）		
	氏名	避難支援を必要とする理由	避難支援区分
△△地域	Aさん	要介護3	B（要介護）
△△地域	Bさん	身体障害者手帳1級（視覚）	C（障がい）
△△地域	Cさん	難病（人工呼吸器）	A（要医療）
△△地域	Dさん	要介護4	B（要介護）
△△地域	Eさん	療育手帳A	C（障がい）
△△地域	Fさん	要介護5	B（要介護）
△△地域	Gさん	身体障害者手帳1級（人工透析）	A（要医療）
△△地域	Hさん	精神障害保健福祉手帳1級	C（障がい）
△△地域	Iさん	要介護3，療育手帳A	E（その他）
△△地域	Jさん	独居高齢者	D（一般）

要支援者個人毎の状況を整理する。

A（要医療）	2人
B（要介護）	3人
C（障がい）	3人
D（一般）	1人
E（その他）	1人

5. 避難先を「仮記入」する

地域名	どこへ				
	避難先施設のタイプ	具体的な施設名	協定の有無	施設について確認が必要な事項	本人・家族に確認が必要な事項
△△地域	介護施設	●●苑	協定締結済		
△△地域	指定避難所（福祉スペース）	●●小学校	協定不要		避難先施設のタイプはどれが望ましいか
△△地域	医療機関	●●病院	協定未締結	自家発電装置があるか	
△△地域	介護施設	●●苑	協定締結済		
△△地域	障害福祉サービス事業所	●●の家	協定未締結	事業所として受け入れられるか	避難先施設のタイプはどれが望ましいか
△△地域	介護施設	●●ホーム	協定未締結		
△△地域	医療機関	●●病院	協定未締結	災害時も人工透析ができるか	
△△地域	公共施設	●●センター	協定不要		避難先施設のタイプはどれが望ましいか
△△地域	ホテル	●●ホテル	協定未締結		避難先施設のタイプはどれが望ましいか
△△地域	指定避難所（体育館等）	●●小学校	協定不要		

6. 移動手段を「仮記入」する

地域名	誰が（避難行動要支援者）	誰とどうやって					
	氏名	日常の移動手段	移動手段のタイプ	本人・家族に確認が必要な事項	具体的な事業者名	協定の有無	事業者の確認が必要な事項
△△地域	Aさん	不明	本人・家族等の運転	普段どのように外出しているか		協定不要	
△△地域	Bさん	本人・家族等の運転	本人・家族等の運転			協定不要	
△△地域	Cさん	外出しない	施設送迎車	普段どのように外出しているか	●●交通	協定締結済	どのような福祉車両を有しているか
△△地域	Dさん	施設送迎車	施設送迎車		●●苑	協定未締結	どのような福祉車両を有しているか
△△地域	Eさん	本人・家族等の運転	本人・家族等の運転			協定不要	
△△地域	Fさん	施設送迎車	施設送迎車		●●ホーム	協定未締結	どのような福祉車両を有しているか
△△地域	Gさん	本人・家族等の運転	本人・家族等の運転			協定不要	
△△地域	Hさん	本人・家族等の運転	本人・家族等の運転			協定不要	
△△地域	Iさん	本人・家族等の運転	本人・家族等の運転			協定不要	
△△地域	Jさん	本人・家族等の運転	本人・家族等の運転			協定不要	

要支援者個人毎に、避難可能な避難先や、支援可能と思われる支援者を「仮記入」する。

7. 個別避難計画（たたき台）の完成

地域名	誰が（避難行動要支援者）	避難支援区分	いつ	誰とどうやって	どこへ
	氏名				
△△地域	Aさん	B（要介護）	警戒情報3の発令	本人・家族等の運転	●●苑
△△地域	Bさん	C（障がい）	警戒情報3の発令	本人・家族等の運転	●●小学校
△△地域	Cさん	A（要医療）	警戒情報3の発令	施設送迎車	●●病院
△△地域	Dさん	B（要介護）	警戒情報3の発令	施設送迎車	●●苑
△△地域	Eさん	C（障がい）	警戒情報3の発令	本人・家族等の運転	●●の家
△△地域	Fさん	B（要介護）	警戒情報3の発令	施設送迎車	●●ホーム
△△地域	Gさん	A（要医療）	警戒情報3の発令	本人・家族等の運転	●●病院
△△地域	Hさん	C（障がい）	警戒情報3の発令	本人・家族等の運転	●●センター
△△地域	Iさん	E（その他）	警戒情報3の発令	本人・家族等の運転	●●ホテル
△△地域	Jさん	D（一般）	警戒情報3の発令	本人・家族等の運転	●●小学校

【たたき台を作成する意義】

- 1) 優先して作成する地域・対象者が見える化し、防災と福祉で共有。
- 2) 避難先や移動手段として、仮記入することで、調整すべき相手方や件数を想定できる。

わたしの避難計画

*印は災害対策基本法で定められている必須項目

〇〇市「個別避難計画」様式（2023年3月2日版）

要支援者番号	名簿掲載日	本計画更新日	本計画本人共有日	共有同意書受領日	本計画作成担当
1	2021/4/1	2023/2/1	2023/2/10	2023/2/10	●●（●●課）
本人氏名*	ふりがな	性別*	年齢	生年月日*	地域・地区
福島花子	ふくしまはなこ	女性	63歳	1959/12/31	A地区
本人住所*		電話番号*	同居家族	住まい	自治会
福島県福島市A町●丁目●●番地の●		090-1234-5678	独居	戸建	A自治会

緊急連絡先

緊急連絡先氏名	続柄	電話番号	居住地	勤務地	備考
福島太郎	長男	090-1234-5678	福島市B町	福島市内	
福島次郎	次男	090-1234-5678	東京都豊島区	東京都内	

避難支援等を必要とする理由*

要医療	要介護	障がい	その他	日常の移動	避難支援区分
人工透析	要介護4	身体障害者手帳2級		施設送迎車	区分A（要医療）

災害別避難計画

災害	被災想定	いつ	誰とどうやって	どこへ（避難施設）*	備考
地震	震度7	自宅に住めないとき	施設送迎車	ふくしま苑	●●地震
津波	浸水想定●m	津波警報の発令	施設送迎車	ふくしま苑	
洪水	浸水想定●m	警戒レベル3の発令	介護タクシー	ふくしまホーム	●●川
土砂災害	土砂災害警戒区域	警戒レベル3の発令	介護タクシー	ふくしま苑	
その他	●●区域	●●の発令	介護タクシー	●●	

避難支援等実施者等*

役割	施設名、氏名（団体）*	住所*	電話番号*	本計画共有日
移動支援	ふくしまタクシー	福島県福島市C町●丁目●●番地の●	090-1234-5678	2023/2/10
避難施設	ふくしま苑	福島県福島市D町●丁目●●番地の●	090-1234-5678	2023/2/10
避難施設	ふくしまホーム	福島県福島市F町●丁目●●番地の●	090-1234-5678	2023/2/10
避難施設	ふくしま公民館	福島県福島市E町●丁目●●番地の●	090-1234-5678	2023/2/10

たたき台を基に、
管理用エクセルに入力
していくと・・・

わたしの避難計画

*印は災害対策基本法で定められている必須項目

〇〇市「個別避難計画」様式（2023年3月2日版）

本人情報

本人氏名*	ふりがな	性別*	年齢	生年月日*	地域・地区
福島花子	ふくしま はなこ	女性	63歳	1959/12/31	A地区
本人住所*		電話番号*	同居家族	住まい	自治会
福島県福島市A町●丁目●●番地の●		090-1234-5678	独居	戸建	A自治会

緊急連絡先

緊急連絡先氏名	続柄	電話番号	居住地	勤務地	備考（緊急連絡）
福島太郎	長男	090-1234-5678	福島市B町	福島市内	
福島次郎	次男	090-1234-5678	東京都豊島区	東京都内	

避難支援等を必要とする理由*

要医療	要介護	障がい	その他	日常の移動	避難支援区分
人工透析	要介護4	身体障害者手帳2級		施設送迎車	区分A（要医療）

自宅の被害想定

地震	津波	洪水	土砂災害	その他
●●地震（震度7）	浸水想定●m	●●川（浸水想定●m）	土砂災害警戒区域内	

本人・家族がすること（洪水や土砂崩れの恐れのあるとき）

大型台風接近などの予報が出たら	避難できるように準備	警戒レベル3（高齢者等避難）の発令	警戒レベル3（高齢者等避難）が発令されたら速やかに移動（避難）	警戒レベル4（避難指示）の発令	移動（避難）	警戒レベル5（緊急安全確保）の発令	命を守る行動	●地震のとき	自宅に住めない場合	持ち物		
	避難準備		移動（誰とどうやって）		避難施設（どこへ）		ただちに移動（避難）		近隣の高い建物や崖から離れた2Fの部屋へ		避難施設（どこへ）	いつでも持ち出せるように準備
	(情報収集) <input type="checkbox"/> 天気予報の確認 <input type="checkbox"/> キケルの復習 (避難準備) <input type="checkbox"/> 外出予定見直し <input type="checkbox"/> 家族の予定変更 (休暇、テレワーク等) <input type="checkbox"/> 持出品準備 <input type="checkbox"/> 予約 <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> ショートステイ <input type="checkbox"/> ペット対応 <input type="checkbox"/> 早めの避難		早めに避難するとき <input type="checkbox"/> 介護タクシー 避難支援等実施者* <input type="checkbox"/> ふくしまタクシー 福島県福島市C町●丁目●●番地の● 090-1234-5678 緊急性が高いとき <input type="checkbox"/> 近隣の運転 避難支援等実施者* <input type="checkbox"/> 福島一郎 福島県福島市A町●丁目●●番地の● 090-1234-5678		土砂災害のとき 避難施設* <input type="checkbox"/> ふくしま苑 福島県福島市D町●丁目●●番地の● 090-1234-5678 洪水のとき 避難施設* <input type="checkbox"/> ふくしまホーム 福島県福島市F町●丁目●●番地の● 090-1234-5678		避難施設* <input type="checkbox"/> ふくしま苑 福島県福島市D町●丁目●●番 090-1234-5678 ※避難所の開設を確認してから移動		<input type="checkbox"/> 食料・水 <input type="checkbox"/> 薬・お薬手帳 <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> 充電器 <input type="checkbox"/> 寝具 <input type="checkbox"/> ペット用品 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
	※避難所の開設を確認してから移動		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>									

個別避難計画の様式として保存、抽出や印刷が可能に。

本様式を活用して、①本人や事業者と接触・調整したり、②対象者に送付して不足分を記入いただくなど、自治体によって様々な運用ができるようになる。

【ツールの構成】

- ① ガイドライン：個別避難計画の基礎知識やワークシート作成方法等を記載
- ② ワークシート：たたき台を作成するエクセルデータ
- ③ 個別避難計画の様式例：本人と調整する際に活用。計画のデータ管理も可能。
- ④ その他様式：取組内容や依頼事項が記載（A4文書）。本人や事業者等との調整時に使用。

【取組成果】

策定支援ツール等を活用して、今年度、**未策定であった7市町村が作成済**となった。
そのほか、支援事業に参加した**19市町村**全てが優先対象エリアのたたき台を作成し、
本人調整等に取り組んでいる。

【市町村担当者の声】

- ・ 市内での計画作成の方針や優先度設定に有効
- ・ 担当各課での作成イメージの共有に有効
- ・ どこから何を始めれば良いか分からなかったが、ツール活用により容易に着手できた。
- ・ 要支援者の現状の把握、計画作成の方針、優先度設定に有効。
- ・ 避難先施設等、協力機関との協定等が計画的に進められる。